難病

不安と決断 3

本当に治るのか、怖かった

仙台市の唐沢洋子さん(50)＝仮名＝は07年8月、仙台社会保険病院に入院して腎生検を受けた結果、慢性腎炎の一つ、IgA腎症と診断された。

引き続き入院して、治療をすることになった。木村朋由医長から説明を受けた。

IgA腎症は、腎臓の糸球体という部分にIgAという物質が沈着して毛細血管に炎症が起き、尿に血液やたんぱくが漏れ出る病気で、進行すると腎不全になってしまう。原因は不明で、以前は薬で進行を遅らせることはできても、治らない病気とされていた。

しかし、仙台社会保険病院では、「扁桃摘出・ステロイドパルス併用療法」という治療法に取り組み、成果をあげていた。

ステロイドの集中的な点滴で糸球体の炎症を抑え込むとともに、IgAを作る指令を出している扁桃を取って元を絶つ、というもので、同病院腎センターの堀田修・前センター長が88年に始めた方法だった。

パルス療法では3日間連続でステロイドを点滴し、4日間休むことを3回繰り返す。扁桃摘出とどちらを先にするかは患者の状態によって違う。唐沢さんの場合、耳鼻科の手術の予約が1カ月先までいっぱいで、まず8月中にパルス療法を2回していったん退院し、9月に再入院して扁桃を取った後、最後のパルス療法をすることになった。腎臓の炎症が進行していたので、少しでも早く治療をスタートしたほうがよいという判断もあった。

点滴を始めるとき、木村医長が「根治しますよ」と言ってくれ、心強かった。

だが、8月末に家に戻って、インターネットでこの治療法について調べると、「一定の効果を上げているが、国際評価は定まっていない」などと書かれていた。

また、「尿潜血が認められて3年以内に始めると治る率が高い」と説明されたが、唐沢さんは4年前から潜血が続いていた。

「本当に治るのだろうか」

耳鼻科で手術について説明を聞くと、怖くなり、さらに不安が膨らんだ。

でも、治療法があると言われれば、受けるしか道はなかった。

9月に扁桃を摘出し、3回目のパルス療法を受け、10月初めに退院した。

退院時の尿検査では、潜血はまだあった。でも唐沢さんは、自分の腎臓がいまどんな状態にあるのか、怖くて聞けなかった。

友人とのメール交換が支えになった＝仙台市

■ご意見・体験は、〈メール〉iryo-k@asahi.comへ。